

エキスパートがばっちり予測！ クロスボーダー時代に求められる アイデンティティ管理とは

工藤 達雄 (NRIセキュアテクノロジーズ)

下道 高志 (日本オラクル)

中島 浩光 (マインド・トゥー・アクション)

富士榮 尚寛 (伊藤忠テクノソリューションズ)

モデレーター: 山田 達司 (NTTデータ)

本日の流れ

- ・テーマに関する課題認識
 - (テーマ1) 認証
 - (テーマ2) 情報管理
 - (テーマ3) 認可

・クロスボーダー時代のID管理とは、

国の間、企業の間、企業・国・自治体などの組織をまたぎ、管理主体、プロセス、管理情報、信頼性、技術(プロトコル)、法規制がばらばらな環境で構築された/これから構築されるアイデンティティ管理の仕組み(システム+運用)が相互に連携し、相互にアイデンティティ(情報+認証)の提供とサービスの利用を行うことである。

たとえば

・単一企業において

昔

・社員 / お客様

今

・社員 / 派遣社員 / バイト / 取引先 / お客様

今後

・社員 / 子会社.....国内取引先 / 海外取引先 / お客様

よりクロスボーダーっぽい

- M&Aにより、2つの企業のID情報を統合
 - 管理属性が違う
 - 管理属性の入手方法が違う
 - パスワードポリシーが違う。MFAの有無など認証結果がOKとしても、その信頼性は多様

単純にくっつけることはできない？ 2つの Directoryを並行運用？

グローバル企業では

- 各国のカンパニーがそれぞれDirectoryとサービスを提供
- 今後相互がIDとサービスを提供したいということが増えてくるのではないか。
- 事例はあるか？
- どんな問題が考えられる？？？EUのデータ保護指令は問題になる？